

『摂南大学教育学研究』第6号発刊にあたって

「摂南大学教育学研究」編集委員会
委員長 村田俊明

このたび、『摂南大学教育学研究』(Bulletin of Educational Research of Setsunan University)第6号が完成いたしましたので、発刊いたします。

本研究年報は、摂南大学外国語学部教職教室の教員および教職課程を履修した卒業生を中心に、教育の理論および実践的研究交流誌として発行するもので、教職教室の研究事業として六年の歳月を刻むこととなります。

ところで、昨年夏、政権交代がありました。教育をめぐる状況には依然として厳しいものがあります。その厳しさの一端を事業仕分けの作業に見ました。経済・金融危機の影響を受けた財源難の中で「コンクリートから人へ」のスローガンの下、環境にやさしい技術の開発やバイオテクノロジー、ナノテクノロジー等の高度先端技術等、未来にむけた戦略が模索されています。さらに深刻化した格差社会の立て直しや人と人との絆をどう取り戻すか、高校教育の無償化や児童手当等の政策課題は、教育や福祉重視の政策にたいする期待が込められています。

めまぐるしく変化し、将来への展望が見だしにくい現代社会の中で、教育への期待も少なくありません。教職を履修する学生が、次代の教師として、希望と自信をもち、生徒と真摯にむきあい、教育に取り組んでいく決意が生きるような状況を願わずにはいられません。

教員免許更新制後の行方、教員養成六年制等も話題に上っています。教員養成のあり方についての根本的な検討の継続が必要です。未来は教育に、教育は教師にかかっているのですから。

昨秋、本学教職OB・OG会の発足、本年1月の文部科学省による本学教職課程の視察と評価は、今後の本学教職課程のさらなる発展にとって励みとなるもので、教職課程運営の基盤充実につながるものと期待しています。また理工学部、経済学部の新設に伴う教職課程の充実に見合うよう、本研究紀要もさらに充実させたいと考えております。